

一、VR 及び VR 施設の活用について

- 1、歴史博物館、駿府城発掘現場（キャッスル）、葵、駿河、清水各区役所、蒲原支所、静岡駅地下広告版、市施設、ゆらら、るくる、アイセル21、生涯学習センター、その他観光施設で常時上演する。
- 2、駿府城を愛する会も保持して各種の行事に活用する。
- 3、DVD 化して個人に販売する。販売者は駿府城を愛する会で手数料をもらう。
- 4、徳川みらい学会と連携して、駿府城を愛する会の企業会員に、販売か贈呈（入会した時）する。会員募集に活用する。
- 5、ユーチューブ、インターネットにのせる。
- 6、静岡市歴史博物館内で、常設ブースを設けて VR・AR の活用を是非お願いしたいと思っています。

この常設ブースでは、単にお城の AR・VR を見せるだけでなく、「駿府城の築城の歴史」及び「関ヶ原の戦いでの勝利」や「天下統一から約260年に及ぶ泰平の世を築いた」徳川家康の功績を「ビデオ化」し、その中で駿府城の姿を VR・AR で紹介して欲しい。単に駿府城の外観・内観を見せるだけでなく、当時の街並みや人々の暮らしも映し出され、それに音響やナレーションも加えて10～15分程度の映像作品として上映して欲しい。

- 7、完成物は資料等も基づくものですから、教育にも活用出来るものだと考えますが、時間の長・短や内容も専門性が高いもの、一般的なもの等に分けて製作出来れば、活用の範囲が広がり利便性も高まると思います。
- 8、VR の上映施設は、駿府城天守閣の模型や、今川館以来の駿府城の歴史がわかるパネルなども展示して、駿府城の歴史と親しむ拠点にしてほしい。天守閣以外の本丸御殿や二の丸なども含めた城内全体をジオラマで再現できないか。
- 9、シアター形式になる場合、現状の発掘現場との映像的な合体というか、このこの石がこの部分になるというのを理解できるようなことができるのでしょ

うか。

先日、長崎の軍艦島のデジタル博物館に行ったときに、ゴーグル型の体験と、疑似体験シアターのような四方を映像で囲まれる中に入るような体験ルームに入ってきました。その時は、自分が軍艦島の上陸ツアー予約をとったけど、欠航してしまい、その代わりに博物館に行ったのですが、それなりに楽しむことができました。

今回の駿府城 VR/AR については、目の前に遺跡があることが大きな違いかと思えます。ですから、実物との連携がとれるといいなと思います。

10、駿府城を愛する会所蔵、またはウッディジョー 1/150 模型を常設展示する。

11、VR の体験施設自身が、VR だけではなく、駿府城以外にも、静岡市内の歴史観光施設のインフォメーションセンター的な機能を持たせることが必要かと思えます。現に、きゃっしるの土日運用をしたときに、お客様から、このあと、どこにいけば良いか？問い合わせされたり、浅間神社への行き方を教えてほしいとか、関連施設への興味も持って下さるお客様もいらっしゃって、観光窓口のない静岡市にとってポイントになればと思います。

12、駿府城公園内（東御門、坤櫓など）にアピールできる常設場所をつくる。

駿府城 VR・AR 館を発掘現場近くに鑑賞場所として設ける（常設館）。（仮説建築として許可が取れるか？）これを、市民や全国の見学者に提供する。

13、VR・AR の写真版や発掘現場の写真等を展示する。

二、AR の活用について

1、アプリ不要（WebAR）…専用アプリを必要とせず、QR コードやリンクから直接アクセスできる仕組みとすることで、市民・観光客ともに気軽に体験可能とします。

2、普及性と利便性…ほとんどの人が所有するスマートフォンを前提とし、SNSへの共有や教育現場での活用もしやすくします。

3、時間帯・天候による演出…AR 天守閣を「生きた存在」として表現するため、現実の環境に連動した変化を取り入れます。

時間帯：朝日で姿を現し、昼に力強く、夕焼けに照らされ、夜はライトアップされた姿を再現。天気：雨の日は濡れた瓦や白壁が艶やかに輝き、曇天では重厚感が増す。

これにより、市民や観光客が日常的に多様な姿を体験でき、「本物を再建したい」という思いを自然に育むことができます。

4、実寸大再現と県外利用…現地では実寸スケールで天守閣を表示し、現代の景観に溶け込む形で体験できるようにします。

東京や北海道、さらには海外でも、駿府城天守閣をスマホ上に表示できる「どこでも AR モード」を導入。

これにより県外の人にもその規模感を直感的に伝え、実際の訪問意欲を高められます。

5、歴史ポータルとしての拡張性…AR 画面を単なるビジュアル再現にとどめず、歴史・観光ポータルとして設計します。

徳川家康と駿府城の歴史的背景を解説。城下町の様子や当時の暮らしを紹介。他の観光名所（久能山東照宮、日本平、三保松原など）にもリンクし、回遊性を高める。

6、インバウンドへの発信…世界的に人気を博したドラマ「SHOGUN」を通じて、徳川家康に関心を持った外国人観光客にとって、駿府城は特別な訪問先になり得ます。

静岡駅に新幹線が停車した際、観光客が皆スマホを駿府城方面にかざし、ARで天守閣を見上げる光景を実現できれば、強いインパクトと魅力を提供できま

す。

「静岡に降り立てば、家康の城が目の前にある」という直感的な体験が、静岡市のブランド価値を大きく高めます。

- 7、AIによる多言語ガイド…AI翻訳を活用し、英語・中国語・韓国語・フランス語などに対応。さらに質問に答えたり観光ルートを提案する対話型ガイドを導入。

駿府城を入口として、静岡市全体の観光情報にアクセスできる仕組みを構築。

- 8、まとめ…ARは「駿府城をその場に再現する」だけでなく、日常や世界とつながることで、市民にとっては誇りと親しみを、観光客にとっては来訪の動機を生み出します。とりわけ「SHOGUN」を通じて家康を知った外国人にとって、静岡駅から体験できるAR天守閣は忘れられない導入体験となり、駿府城再建への社会的機運を高める大きな力になると考えます。

- 9、駿府城公園内の特設ブースでの使い方はVR・ARの見せ方を工夫して欲しい。現況の石垣の上に天守閣が映りだされ、本物がそこに存在しているように見せる等々様々なアイデアを考え、お金を払っても価値のあるような演出をお願いしたい。

- 10、ARを含んだ現場での実地体験をできる方法を考えてほしい。

- 11、ARでいえば、静岡駅に降り立った時に、アプリをDLしていれば、駿府城の方向をみると、姿が見えるとかできれば、駅から駿府城公園を目指してくる理由つけにもなるかと。

お城や、城壁が遠くからは認識できないところが、駿府城公園の弱みでもあるかと思います。街中の駿府城に向かうルートのポイントにたってそのアプリを起動すると、お城が見えたらいいですね。

三、観光振興への活用～観光客層の拡大～について

- 1、お城ファンやゲームファンのような多種多様な層を取り込むために、城に関わる魅力的なゲームを作成し、観光客の層を広げる。
- 2、駿府城 VR 体験を含む静岡魅力発見ツアーを企画し、国内外からの観光客を誘致する。
- 3、駿府城の魅力を可視化（デジタル復元による「見える化」）
特に歴史好きだけではなく、外国人観光客など、幅広い層に訴求可能
「ただの史跡」から「体験できる歴史空間」へと進化し、滞在時間の延長・再訪意欲の向上

四、地域経済の活性化について

- 1、周辺商店街や飲食店、宿泊施設への波及効果（経済波及効果）
イベントや体験型プログラムと連携し、地元産業・地場商品の販売促進

五、イベント・講演会等への活用について

- 1、世代を超えて楽しめるイベントや、静岡市歴史博物館等で講演会を行うことで、実際に駿府城公園に足を運んで現地で VR 体験等をし、駿府城、静岡市の魅力を PR する。
- 2、駿府城公園の作り替えに伴って、そこで行われるイベント等では必ずここに駿府城があったと言うことをアピールするようにするべきである。まず皮切りとして来年4月の静岡祭りでのお披露目をお願いいたします。
- 3、アメリカのドラマ「将軍」に代表されるように、日本の戦国時代は非常に世界から多くの興味を持たれている。そのような映像作品に精密に出来上がった VR を利用してもらえないだろうか。

静岡市がそれを映画会社に提供することによって徳川家康がここに住んでいた

と言うことをより広く世界に宣伝できる。現地のロケ地の勧誘も含め大いに可能性はある。

4、来年の5月に静岡映画祭がマリナート等で開催されるが、そのときVRを上映すれば広く周知を図ることができる。

六、文化・歴史の継承と教育現場との連携について

- 1、VR、ARを用いた授業を取り入れることにより、ゲーム感覚で駿府城について学ぶことができ、興味を持った上で駿府城公園や静岡市歴史博物館を訪れ、自分の街の歴史を学ぶきっかけ作りとする。
- 2、郷土の歴史教育の一環として、VRの上映施設を市内各小中校の見学先として定着させてほしい。
- 3、2026年3月に完成したら、教育委員会を通じて、先生方に体験会を設ける。
2027年のグランドオープンに向けた、駿府城公園内の社会科見学コースに組み込む。
- 4、駿府城の歴史的価値を視覚的・体験的に伝授
小中学校の社会科教育や校外学習での活用
多言語対応のAR・VRによるインバウンド対応と国際的な歴史理解促進
- 5、市内小・中学生のVR施設の鑑賞は必須とし、静岡人としての誇りを持たせる。
- 6、工業高校建築科 木造でディテールの研究や仕口等鑑賞勉強させる。
- 7、大広間の襖絵の縮小版をテーマをもって一般募集する。

七、PR活動の推進について

- 1、本事業を更に市民に周知し盛り上げていくために、事業の進捗状況を含めマスコミ等を絡めたPR活動をより活発にしていってはどうでしょうか。それによ

り、関心が高まり、完成後の VR・AR を活用したい先が出てくる可能性もあると思います。

2、近くの県庁展望台には眺望を求めるインバウンドの観光客が訪れている。インバウンドも含めた PR 活動で施設の認知度を高めたい。

3、駿府城そのものの歴史的価値を市民 県外 世界の方々に知らしめることである。大地に VR が出来上がったことを徹底的に広報するべき。テレビ、マスコミへの露出のほか、SNS 等の媒体を使って継続的に行うことが必要である。

4、インバウンド客に対して、静岡市は他の都市に比べて少し出遅れてる部分がある。日本固有の建物等が大火と戦災により失われているからである。駿府城は逆転する大きなアピールポイントと考えられる。

5、2026 年 3 月に完成したら、制作にあたり寄附した方々に先行してお披露目をする。

6、完成品 100%披露でないにしても、小学校や中学校、歴博の中で「断片的に披露する場」を定期的に設ける。

→静岡まつりのみの披露でなく、広く体験できる機会とする。

7、2027 年 3 月グランドオープンに際し、1～3 分の PR ビデオを作成しユーチューブで世界中に発信する。

8、静岡まつりで歴博の会場を使用してアピールする。

静岡まつり大演舞場での演技終了後に、30 分位アピールする。

八、VR・AR に対する期待について

1、将来的には、駿府城公園内に、ミニチュア版の駿府城の建設の声が上がるよう、成果物を期待します。

2、駿府城の姿を驚きと感動をもって体感できることを期待しております。

3、AR・VR 体験施設 非日常体験ができるそれなりの建造物

没入感を高められるストーリー展開

九、駿府城公園や公園周辺の魅力向上と回遊性の向上について

- 1、駿府城と御殿のありし姿が容易に想像できる資料づくりと無料配布（城内に設置）別紙、福井県で作成した福井城の古今マップを参考にする。

福井県総務課財案活用課が、「江戸時代後期の本丸」の絵図にトレーシングペーパーで「現況のマップ」を重ねた資料を現地で無料配布している。駿府城のように、天守など主要な建築物がないところでは、このような資料を観光客に見てもらうことにより、お城の実像を想像することができ、観光客の満足度を高めることに繋がると思う。駿府城を愛する会でも駿府城探検事業の1回目で、参加した大学生が同じような教材を作成したことがある。

- 2、駿府城だけが持つ大きな特徴として、①天守が富士山を背景にしていること、②天正期の天守台と慶長期の天守台が重なって発掘されたことを挙げることができる。現在、VR・ARによる駿府城再現事業と同時に駿府城の再整備事業が進められているが、特徴の②に着目すれば、天守台の整備に関連して、2つ天守台を眺望できるよう、天守台の上に橋を架けたら面白い。文化庁が慎重になると思うが、大きな話題となり、“見せる文化財”として新しい価値を生み出すべきではないか。

- 3、駿府城公園内及び周辺に無料 WIFI 設備を設置・整備すること前提とし、以下具体的な活用方策を提案します。

- 1) VR・AR ツアーを実施する。(以前実施したタイムトラベルのような方式)

VR：ゴーグルを装着して移動することは難しいので、駿府城公園及び周辺の数カ所にて、観光ガイド担当が説明・ご案内する。(追手門、二の丸橋、本丸御殿、天守閣入口、天守台など)

AR：スマホ又はタブレット端末を携帯して、観光ガイド担当と一緒に移動し各ポイントにてガイドが説明する。(駿府城公園内ほか)

⇒話題性により集客力が向上する

2) 小中学校向け教育プログラムを設定する。(駿府城内見学コース設定など)

⇒将来を担う若年層に歴史文化の魅力を発信する

3) 各種イベントに参画してPRする。(デモンストレーションほか)

⇒効果的なPRにより、集客につなげる

4) 葵船の中で利用する。(移動型WIFIルーターなどが必要)

⇒特別な世界観が体験でき、集客につながる

5) 県庁別館富士山展望ロビーでの活用。

⇒上空から見た駿府城全体を把握できて歴史ロマンを実感できる

駿府城と富士山とのコラボで展望場所としての魅力が倍加する

4、このVR・ARを活かしながら、歴史博物館～家康公像・みかん～駿府城常設ブース～巽櫓・坤櫓～紅葉山公園～茶屋への観光ルートとしてお茶・お菓子付の周遊チケット等の検討もした方が良いと思う。

それぞれに写真撮影用スポットの看板も設置しながら・・・。

マニアだけが喜べば良いという発想から転換して欲しいと思います。

5、絵図の購入について…歴博での常設展示はもちろんのこと、絵図の見かた講座を歴博で定期的に行う。

6、ありし日の駿府城郭を想像しやすいジオラマを駿府城公園に配置する(巽櫓ではなくて)

7、巽櫓、坤櫓、浅間神社、徳川家康に関する近隣観光施設との連動性と葵舟等の話題性ある資源の活用

8、出張お城EXPO誘致を本格的に実行するため、実行委員会を立ち上げる。

（静岡市・静岡商工会議所・駿府城を愛する会・徳川みらい学会・〇〇連絡協議会等）

9、既存の施設（例：静岡市立歴史博物館、久能山東照宮、青葉シンボルロード
周辺商店街など）との連携強化

公園を中心とした歩いて楽しめる歴史観光エリアの形成

市民の憩いの場としての魅力も向上（イベント開催、ライトアップなど）

以 上